令和2年度　研究計画の概要

嬉野市立吉田小学校･吉田中学校

1　研究主題名

「自ら考え、伝え合い、深く学ぶことができる児童生徒の育成」

～小中一貫した指導の積み重ねを通して～

2　主題設定の趣旨

本小中学校は、小学校は全校児童９０人、中学校は全校生徒５４人からなり、全学年単学級の小規模校で、就学前を含めほぼ同じ集団での生活を続けている。児童生徒は、明るく素直であり、課題にも熱心に取り組むことができる反面、初めての集団での関係作りやコミュニケーションに苦手意識をもっている傾向がある。また、自信をもって自分の意見を述べたり自分たちで考え行動したりという主体性や、積極的に他者と関わろうとする態度が十分に育っているとはいえない。

これから成人して子ども達が社会で活躍する頃には、人口の減少、グローバル化の進展により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化していると予測される。このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、複雑な状況変化の中で臨機応変に対応できるようにすることが求められている。

これらのことを踏まえ、平成２９年度は、活用して考える力、考えたことを表現する力をさらに向上させるために、小中一貫した指導を通して、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見出して解決策を考えたりする「主体的・対話的で深い学び」へとつなげるための指導を行った。具体的には、小中を通して授業スタイルの標準化（「吉田メソッド」）を図り、伝え合い活動の充実を目指した授業実践を行った。

また、平成３０年度は、これまでの小中一貫した指導過程において、思考力を育成する場面を設定した授業づくりを継続しながら、さらに「学んだことを活用して主体的に学び、考えを伝え合い深く学ぶことができる力」の育成を目指した実践を行った。

さらに、令和元年度は、「吉田メソッド」の中で「伝え合い」や「振り返り」に重点をおいた研究をし、全員授業や学習環境の整備を行った。その結果、小中職員が共通理解を深めて実践をすることや、９年間を見通した児童生徒への指導を目指すことができた。児童生徒については、「伝え合い」を意欲的に行うことはできるようになったが、思考が深まったとは言い難い。

そこで、今年度は、授業や学校生活の場面において、自ら考えようとする意欲の構築に組織 的に取り組んでいきたい。また、授業においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った不断の授業改善に努め、児童生徒が自分の考えを他者と伝え合う際に、相手意識・目的意識をもった「伝え合い」を行わせることで、「深い学び」につなげていきたいと考え、本テーマを設定した。

3　研究内容

(1)研究目標

小中一貫した指導や取組を通して、積極的に相手と考えを伝え合いながら学びを深めることができる児童生徒を育成するための指導の在り方を探る。

(2)研究の手立て

○小中一貫した「吉田メソッド」による「考える」「伝え合う」「振り返る」活動を中心とした各学習過程の指導を充実させ、深い学びへつながる授業づくりを行う。

○小中合同の研究会や授業研究会を通して指導方法の工夫・改善を行うことで、学習指導における小中教職員の相互理解を深める。

○小中学校で系統的な指導を行うために、各教科・領域等において９年間を見通したカリキュラム編成の見直し・改善をする。
○基礎的・基本的知識や技能の習得を支えるために、授業外の時間を利用した、継続的な学力向上の取組の工夫を行う。

(3)　部会の取組

全体会

① 小中一貫教育・学力向上の推進に関わる研修
② 研究主題・年間計画等の決定
③ 各部会の事業等の連絡調整
④ 各部会の提案・検討・実践
⑤ 合同の授業研究会

A 授業づくり部会　○村田(岡)、千々岩、福田、澤田、吉冨
○杉光、白濱、中野、坂本茜、松尾

○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの推進
ア「吉田メソッド」による各学習過程の指導
・相手意識・目的意識をもった課題設定の工夫
・思考が深まるような「考える」・「伝え合う」過程の工夫
・視点を示した「振り返る」過程の工夫
イ授業研究会を通しての小中職員の指導力向上
・課題の共有とそれを生かした日々の授業実践

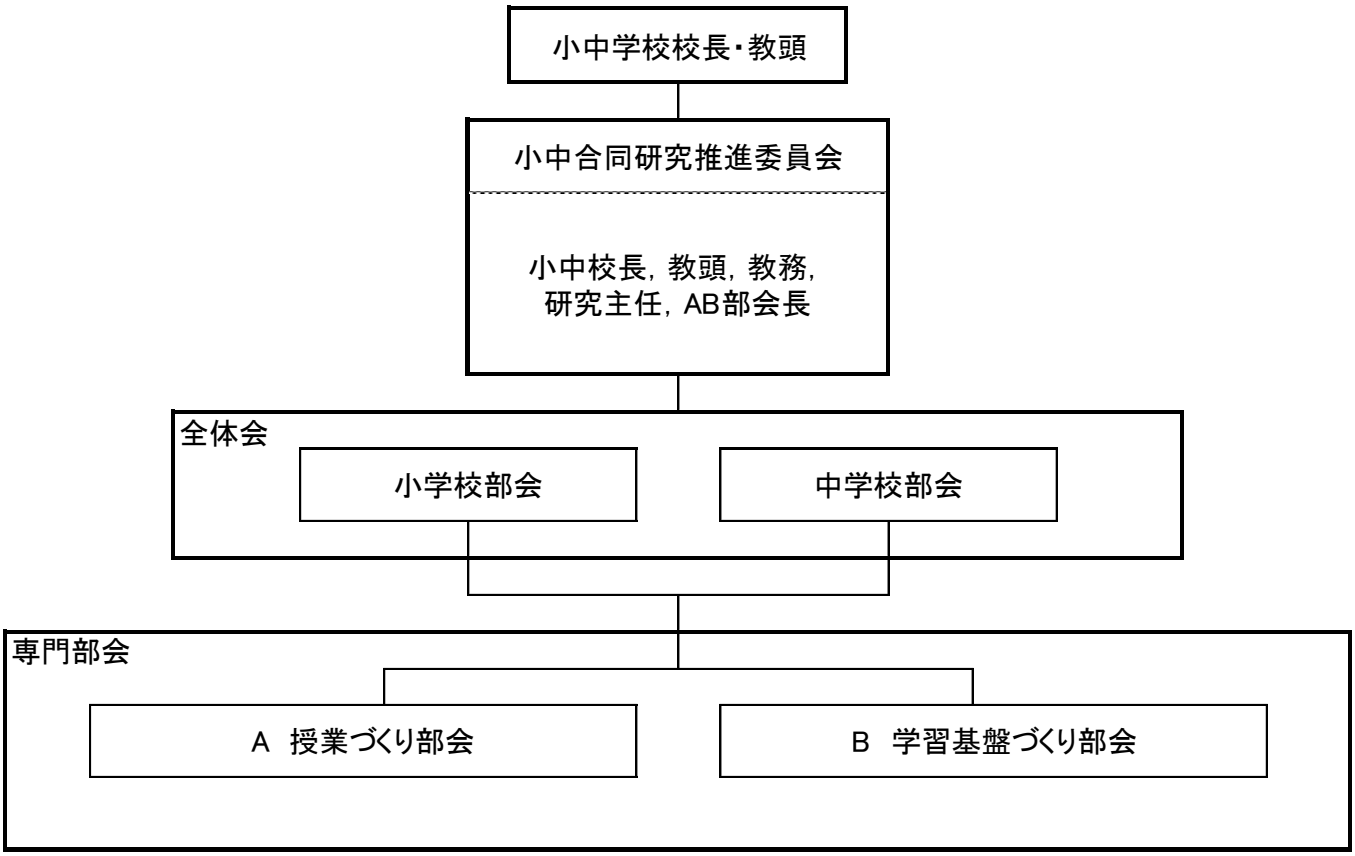
B 学習基盤づくり部会　○木原、蒲地、浦川、井手、越田
○坂本、山口、古賀、北村、江口

○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた環境整備
ア授業外での「自ら考える」「伝え合う」場の工夫
（例）ブロック集会、朝・帰りの会、全校スピーチ（中学校）、児童集会（小学校）
イ児童生徒・職員の意識アンケート実施
ウ学習規律（学習道具や授業中のきまり）と学習環境の整備（教室，廊下等の掲示等）

(4)　その他の取組
○指導事項のつながりを意識したカリキュラムの見直しと活用
○乗り入れ授業・交流学習の計画・実施
○ブロック部会・集会の実施
○小中一貫教育だよりの発行（年３回：7月、12月、2月）

４ 期待する研究の成果

(1)　小中合同の研究会や研究授業を通して、学習指導における相互理解が深まるとともに、小中学校教員互いの指導法改善が図られる。
(2)　９年間を見通したカリキュラムを活用することにより、教科内や教科の枠を超えた学習の系統が可視化され、小中一貫した指導法の工夫や指導力の向上につながると期待できる。
(3)　思考が深まるような指導過程「吉田メソッド」での授業を展開する中で、主体的・対話的で深い学びへとつなげたり、授業外での場に活かしたりすることにつながると期待できる。

(4)　意識アンケートや小中そろった学習環境整備を行うことで、児童生徒の意識を高めることにつなげられると期待できる。

5 研究の組織